



# 史上最年少大関 (中)

## 悲哀あふれる替え歌

「大相撲ブルース」なる「珍曲」がある。昭和30年代前半の物と伝えられている。宇多田ヒカルの母藤圭子が自らのアルバムにも収録している。知る人ぞ知る「ネリカンブルース」の替え歌だった。ネリカンとは練馬鑑別所のことだ。

「国を出るときや横綱と大きな夢を抱いてきた部屋に来てみりや兄弟子の大きなゲンコツ 俺を待つへ序ノ口、序二段、三段目 やっと十両上がったら可愛いあのコは他人の妻 愛しい母さん墓の下……」  
という歌詞だ。悲哀が表れる歌詞は大相

うな後輩を潰そうという作用が働く場合がある。それに屈せず、強い気持ちで立ち向かうことも出世への道だが、「かわいがり」に名前を借りた厳しい指導が行き過ぎたケースは多々あった。

## 相談役の鶴の一声

不条理な「かわいがり」がなかった柏戸は持ち前の素質を早く開花させ、出世街道に乗った。

## 兄弟子がかばった

鶴岡・上郷地区出身で5歳年上の兄弟子・柏森(本名 羽根幸雄)が同じく二モンというところで、何も分からなかった新弟子時代からかばってくれたことが大きかった。柏戸自身も減らすことがなかったのがプラスに働いた。大相撲に限らないが、スポーツにおける団体行動は、芽が出そ

うな道が待っていたのだろう。これはいつか触れる機会が出てきそうだ。いずれにしても柏戸の21歳での大関昇進に庄内は沸きに沸いたのだ。

## 小部屋入門が吉に

修業環境、昇進問題と柏戸は小部屋に入ったことが追い風に働いたのだ。実は伊勢ノ海部屋入門と同時に、双葉山、羽黒山が出た立浪部屋への鞍替え入門を地元有力者に強く勧められてもいた。もし大人数の名門・立浪に入っていたら、ど

35年秋、東京に戻ってからの大関昇進祝賀会(9月7日)で時津風理事長(元横綱双葉山) 左二の祝辞を受ける柏戸と師匠伊勢ノ海親方(右端)



## 大関万歳の名刺広告

○：柏戸の大関昇進を「郷土の誇り」と銘打った本紙の広告「写真下」が

敬称略 (富樫 嘉美)

企業も見えて興味深い。毎週火曜日付に掲載

**郷土の誇り・新大関・柏戸・万歳**

<p>酒井 忠夏 鶴岡市役所 鶴岡市議会 鶴岡市農協</p>	<p>池田正之輔 池田正之輔 池田正之輔</p>	<p>山添農業 協同組合 山添農業 協同組合</p>	<p>鶴岡市大東 農業協同組合 鶴岡市大東 農業協同組合</p>	<p>鶴岡市土郷 農業協同組合 鶴岡市土郷 農業協同組合</p>
<p>青龍寺川 土地改良区 青龍寺川 土地改良区</p>	<p>柳引村議会 柳引村議会 柳引村議会</p>	<p>東郷農業 協同組合 東郷農業 協同組合</p>	<p>鶴岡市大東 農業協同組合 鶴岡市大東 農業協同組合</p>	<p>鶴岡市土郷 農業協同組合 鶴岡市土郷 農業協同組合</p>
<p>鶴岡市大東 農業協同組合 鶴岡市大東 農業協同組合</p>	<p>鶴岡市土郷 農業協同組合 鶴岡市土郷 農業協同組合</p>	<p>鶴岡市大東 農業協同組合 鶴岡市大東 農業協同組合</p>	<p>鶴岡市土郷 農業協同組合 鶴岡市土郷 農業協同組合</p>	<p>鶴岡市大東 農業協同組合 鶴岡市大東 農業協同組合</p>